

# ビジュアルスノウ症候群（VSS）

## [ライブラリ](#)

## 私の場合

幼少の頃から「金色の粒粒」が見えてましたが、子供とはいえ、物事には優先順位がありましたので、粒粒問題は後回しでした。

周りに聞いても「あんた、おかしいんじゃないの?」「大変だから病院へ行った方がいい!!」「変なの」…とバカにされるか早とちりされるかですし、何よりも困ってなかったので、深刻に考えませんでした。

ネット情報によると、ビジュアルスノウ症候群は近代に発見されました。少数にしか見られない症状で、閲覧者様が多数派なら、あなたとは違う視界の持ち主が世界には少しだけいるのです。

後天性の方からは、スノウ（粒）が被さったため、「好きな相手の顔が見えなくなった」「本が読めなくなった」などの不便な様子が聞かれ、精神的な病を発症する方もいるとのことでした。

しかしながら、同じ症状でも先天性なら「日常」なので、捉え方も違います。

私の場合は砂金が視界全体に舞ってますので、視界の物体のすべてに砂金が付着しております。スノウは砂金ですので、粒が小さいため、物体を覆い隠すことも、輪郭を隠すこともありません。

ビジュアルスノウ症候群は飛蚊症とは違います。私も飛蚊症を幼少から発症しておりますが、飛蚊症は水晶体の「淀み」を見ている、とのことでした。ビジュアルスノウ症候群は網膜に（焼き）付いた無数の点々を見ている気がします。

後天性VSSの方は「白が白く見えなくなってしまった」と肩を落としますが、私という先天性VSSが一般の見え方を知ったとき「白って白く見えるんだ」と思いました。信じられない感想だと思います。つまり精神を病んでません。

無礼を承知の上で申し上げますが、後天性の方の話は大げさに聞こえます。準ミュンヒハウゼン症候群（※）も同時に発症している疑いがあります。

「見えるならいいじゃないか。常に真っ暗じゃないんだから」と思います。後天性VSSは、私にとっては他人事なのです。ディスプレイの文字が金塊で隠されたとき、後天性の方の気持ちがわかるのでしょうか。

メガネを外せばいつもボヤボヤの世界ではありますが…。

※ミュンヒハウゼン症候群は、周囲の関心や同情を引くために、病気を装ったり、自分の体を自ら傷付ける行動が見られますので、ビジュアルスノウ症候群が実際に発症していて、重篤を装うなら、「準ミュンヒハウゼン症候群」と言えます

最終更新日 2026-08-25

[まこと](#)